

【天国への手紙

2021年7月7日放送分】

あの時のお願い

ラジオネーム：YOKKO

「かみちまおねがいます。せうじちび ままにあわせてください。」
小学校に上がってすぐ、ママは天国に行ってしまった。その年の七夕。
学校の笹飾りに願い事を書いた短冊を飾るじつになり、真っ先にじ
の願いを書いてみた。が、すぐに消した。私がそんな願いを書くとき先
生やお友達が「かわいそう」「と悲しい顔をこそうだから。」

本当は、じいじおじもなぐ寂しかった、ママに会いたかった。でも、
ママは言っていたよね。「陽子は雲一つない晴れの日生まれだの。
だから太陽の子。陽子が周りの人を明るく照らしてあげるのよ」と。
私が「じい」と言いつつ、ママは「いら子いら子」と、私の頭をなでて
くれた。うれしかった。

「ママ、なんで私に太陽の子、なんて言ったの？」 私は笑ってな
ければいけない、と思うようになったじゃない。辛かった。ママに泣
きつきたかった。頭をなでてもらいたかった。

ある時、インタビュー番組で、教会のシスターが、「悲しい時は笑
いなさい。笑えないなら、鏡の前で口角をあげてみなさい。前向きに

なれるから」と話してらるのを聞いた。ひょつとて、ママはJのメッセージを私に伝えたかったの？ わかり辛いよ。

遠回りしたけど、おんおんママの思いつきは嬉しかった気がこまる。

おかげをまづ、私はちよつとじよじよはくになれなう、たぐもつら女性になりました。明るい太陽というより、じつり大きい太陽にようにね。ありがとう。

追伸 今年を書いてみました。小学一年生の時に書けなかったのをお願いを。「かみをおねがいます。もういちど ままをあわせてください。」あいたらいよ。陽子

リクエスト曲

〈 涙くんさよなら / 安達祐実 〉